

霊界物語に出てくる地名と世界・地図



霊界物語第1巻～第3巻

序

霊界物語は太古の世界を舞台とした神々の物語です。物語に出てくる地名が何処にあるのかわかると難解な話も少しは興味が増すのではと思います。調べてみました。ここでは1巻から3巻までに出てくる地名を物語と地図帳から私なりに調べ、それを基に地図を作成しました。以下はその根拠を示したものです。なおこれは私の独断で作ったもので、読まれた皆様には疑問や間違い、不足等を発見されましたら是非お知らせください。

霊界物語に出てくる地名と世界・地図 [第1巻]

◆発端

*丹波^{あなを}穴太^{たかくまやま}の霊山 高熊山

【考察】：丹波は(古くはタニハ)旧国名。大部分は今の京都府、一部は兵庫県に属する

穴太は現在の京都府亀岡市曾我部^{あなを}町穴太。

【考察】：高熊山は三五七mの山。一般的(地図上)には丁塚山という。

◆第1章 霊山修行

*高熊山は上古は高御座山^{じやうこ たかみくらやま}と称し。上古には開化天皇^{かいくわてんのう}を祭りたる延喜式内^{えんぎしきない}小幡神社^あの在った。

【考察】：小幡神社は亀岡市曾我部町穴太に鎮座

◆第2章 行の意義

*世には……釈迦でさへ檀特山(1-1)において数ヶ年間の難行苦行をやつて、仏教を開いた

【考察】：檀特山(梵語 Da aka)はパキスタン北部のガンダーラにある山。弾多落迦山^{だんだらか}ともいう。釈尊の前世身、須達拏太子が布施の行を修した土地という。俗に釈尊修行の山ともいわれる。

ガンダーラ(ペルシア語; Gandara)は、現在のアフガニスタン東部、およびパキスタン北西部にあった古代王国。カブール河北岸に位置し、その東端はインダス川を越えてカシミール渓谷の境界部まで達していた。ガンダーラの王国は紀元前6世紀~11世紀の間存続し、1世紀~5世紀には仏教を信奉したクシャーナ朝のもとで最盛期を迎えた。1021年ガズナ朝のスルタン・マフムードにより征服された後、ガンダーラの地名は失われた。イスラム支配下ではラホール、またはカブールが周辺地域の中心となり、ムガル帝国の支配下ではカブール州の一部とされた。

◆第13章 天使の来迎

*自分のその時の心持は、富士山(1-2)が見えたのである

◆第16章 神界旅行の三

*実は私は、地の高天原にあつて幽界を知ろしめす大王の肉身系統の者です

【考察】：ここでは綾部の大本をさす。

◆第20章 日月の発生

*これこそ仏者のいはゆる須弥山^{しゆみせん}で

【考察】：シュメール語の音写。妙高山と漢訳する。仏教の宇宙観によれば世界の中心に高くそびえる巨大な山



周囲は屏風を立てたような青山で囲まれている

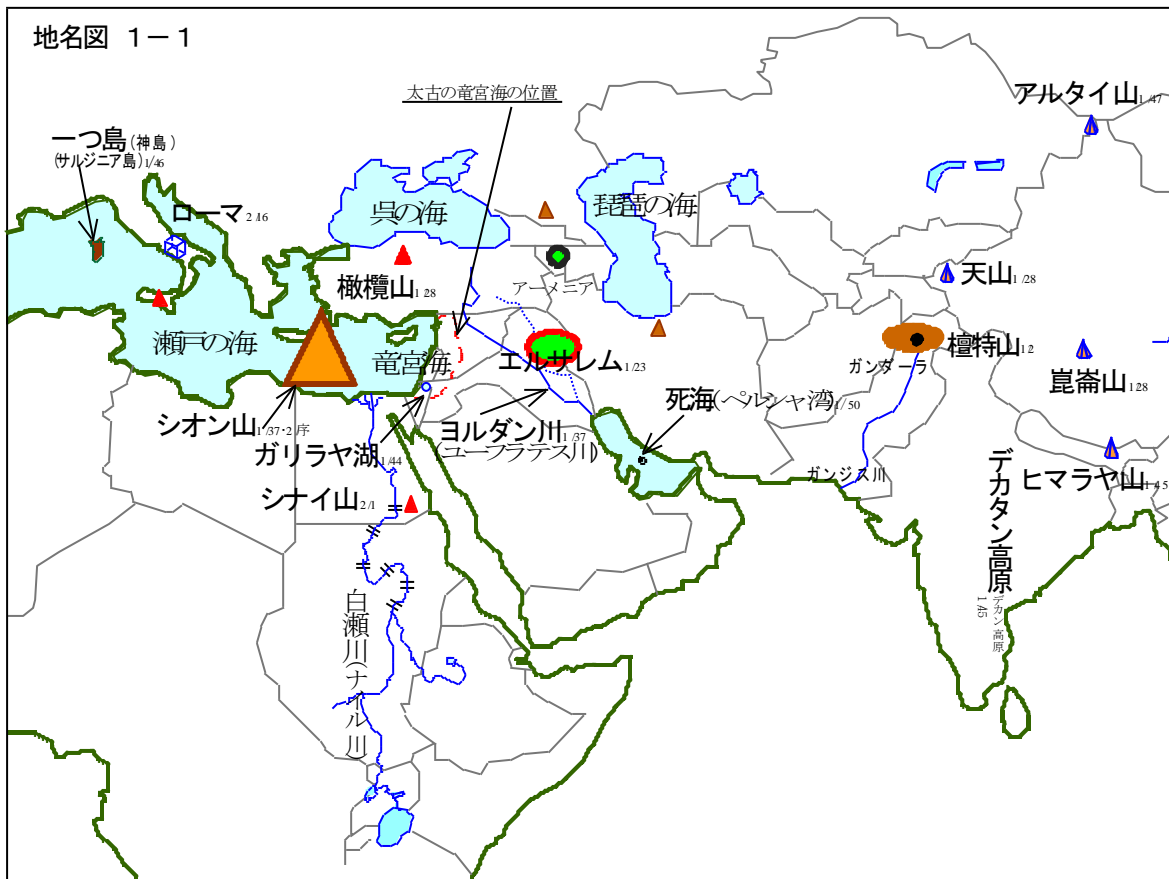
◆第23章 黄金の大橋

地の高天原は、・・・そこには大きな河が流れてゐる。これは神界の大河で**ヨルダン河**(1-1)ともいひ、又これを**イスラエルの河**ともいひ、また**五十鈴川**ともいふのである。さうしてそこには非常に大きな**反橋**が架つてゐる。この橋は、全部黄金造りで丁度住吉神社の反橋のやうに、勾配の急な、長い大きな橋であつた。・・・神界ではこの橋のことを**黄金の大橋** (**十二の太鼓橋**) と名づけられてゐる。・・・さうしてこの橋を渡ると直に、自分は**エルサレム** (1-1)の聖地に着いた。この聖地には・・・大神の宮殿が造られてゐる。・・・**エルサレムの宮**ともいへば、また**珍の宮**とも称へられてゐる。・・・さうしてこの宮の建つてゐる所は、**蓮華台上**である。この台上に上つて見ると、四方はあたかも屏風を立てたやうな青山を廻らし、その麓にはヨルダン河が、布をさらしたやうに長く流れてゐる。・・・湖水が、麓を取囲んでゐる。その湖水の中には、大小無数の島嶼があつて、・・・そこにも黄金の橋が架けられてあり、その橋の向ふに大きな高殿があつて、これも全部黄金造りである。これを**竜宮城**といふ。

【考察】：ヨルダン河は第35巻第1章によると、「ヨルダン河はメソポタミヤの西南を流れ、今日の地理学上からはユウフラテス河と云ふのがそれであつた。新約聖書に表はれたるヨルダン河とは別物である。さうしてヨルダン河の注ぐ死海も亦別物たることは云ふ迄もない。今日の地理学上の**波斯湾**が古代の死海であつた。併し乍ら世界の大洪水、大震災に依つて、海が山となり、山が海となり、或は湖水の一部が**決潰**して入江となつた所も沢山あるから、神代の物語は今日の地図より見れば、多少変つた点があるのは止むを得ぬのである。」

*さうしてこの橋 (ヨルダン川に架かる黄金の大橋) を渡ると直に、自分は**エルサレム**の聖地に着いた。

【考察】：エルサレムは第35巻第1章によると、「神代に於けるエルサレムは小亜細亜の**トルコ**の東方にあり、**アーメニヤ**と**南北** 相對してゐた。」



◆第25章 武蔵彦一派の悪計

*武蔵彦、……の悪神は、最初の黄金橋破壊に失敗したので、……堂山の峽に集め密議を凝らした。

*小島別は……木常姫、中裂彦の悪神を加へ、鞍馬山) に立てこもって……強王的に竜宮城を占領せ*むと企てた。……土彦、牛人、中裂彦、鬼熊らの部将株と、大江山に集まつて熟議を凝らした。

【孝察】：堂山の峽は綾部市下八田町上谷

【孝察】：鞍馬山は京都市左京区鞍馬。弁慶と牛若丸で有名な鞍馬寺がある。

【孝察】：竜宮城は綾部の竜宮館（現大本本部）か？

【孝察】：大江山は京都府与謝郡叺悦町。大江山の酒吞童子で有名)

◆第26章 魔軍の敗戦

*^{かんらんざん}檜山のうしろに忍ばしめて時の来るを待たしめた。

【孝察】：檜山は日本にあっては本宮山に比定され、世界地図上は28章参照(1-1)

◆第27章 竜宮城の死守

*ここに敵の御魂は驚きおそれて竜宮城を立ちいで、高杉彦、安熊らの部将を引率れ、シナイ山(1-1)に避難された。

【孝察】：シナイ山は一般的にはシナイ半島にあるとされているが、12巻を詳しく読むとナイル川（白瀬川）の近くにあると書かれているのでスーダンよりのナイル川に近い所とした。

*しかして竹熊はエデンの園に陣を取り

【孝察】：エデンの園（野）はエルサレムの地域内のヨルダン川の近にある。28章ではエデンの野（自然の広い平地。多く、山すその傾斜地。）とあり、そこにはエデン城があったと思われる。33章参照

◆第28章 ^{こんらんざん}崑崙山の戦闘

*このとき大八洲彦命は元彦に命じて少数の神軍を引率れ、^{かんらんざん}檜山(1-1)を守らしめた。この山はエルサレム(1-1)の西方にある高山で、エルサレムおよび竜宮城を守るには、もつとも必要の地点である。

【孝察】：檜山はエルサレムを現在のイラク付近と想定すると呉の海（黒海）のすぐ下にクゼイアナドール山脈があるので檜山をその中の山の一つと考えられる。

【孝察】：エルサレム【第37章 参照】 尚、神代におけるエルサレムは現在のエルサレムとは関係ない。

*大八洲彦命は独り少数の神軍とともに、天山(1-1)の頂に降ってきた。

【孝察】：天山はテンシヤン山脈の最高峰ポベディ山(7439m)か？

*『^{こんらんざん}崑崙山(1-1)に移れ』との神命である。

【孝察】：崑崙山はクンルン山脈の最高峰エズタク山(6973m)か？

◆第29章 天津神の神算鬼謀

*この山を天保山(1-2)といふ。……天保山のはるか東北にあたって天教山(1-2)といふのがある。

疑問：①「天保山のはるか東北にあたって天教山といふのがある」と

②「天保山の陥落したその跡が、今の日本海となった」と言う2つの文章から、天教山《富士山》を中心にして考えるとき、①の文章で、天保山は(口)の東シナ海となる。②の文章では天保山(イ)は陥落し日本海となったとあるから、天教山は北海道あたりになる。天教山の位置は動かさないので、

「天保山(日本海)のはるか東北」は誤字で「東南」ではないか？

◆第30章 黄河畔の戦闘 P171

*大八洲彦命は濁流みなぎる黄河(1-3)の畔にすすまれた。

【孝察】：黄河は(水が黄土を含んで黄濁しているからいう)中国第2の大河。青海省の約古宗列盆地の南縁に発



源し、四川・甘肅省を経て陝西・山西省境を南下、汾河・渭河など大支流を合せて東に転じ、華北平原を流れて渤海湾に注ぐ。全長 5464 キロメートル余。流域は中国古代文明の発祥地。

◆第31章 九山八海 (ハチス)

*この神山《天教山》の、天高く噴出したのは、国常立尊の蓮華台上に於て雄健びし給ひし神業の結果である。その時現代の日本国土が九山八海となつて、環海の七五三波の秀妻の国となつたのである。

【考察】：蓮華台上は日本では綾部の鶴山（本宮山）。世界ではエルサレムの中心にある山。

*天保山の陥落したその跡が、今の日本海となつた。また九山とは、九天にとどくばかりの高山の意味であり、八海とは、八方に海をめぐらした国土の意味である。ゆゑに秋津島根(1-3)の国土そのものは、九山八海の霊地と称ふるのである。

【考察】：九山は天教山(1-2)

【考察】：秋津島根は【秋津洲・秋津島・蜻蛉洲】大和国。また、本州。また広く、日本国の異称。(もと御所市付近の地名から。神武天皇が大和国の山上から国見をして「蜻蛉の譬の如し」と言つた伝説がある)

◆第32章 三個の宝珠

*見るみる天保山は急に陥落して現今の日本海(1-2)となり

*四個の石を一度に悪竜にむかつて投げつけた。……この四つの石は、海中に落ちて佐渡の島、壹岐の島および対馬の両島となつたのである。

【考察】：佐渡の島は新潟県。壹岐の島は長崎県。対馬も同じく長崎県

*そこへ地の高天原の竜宮城より

【考察】：地の高天原は綾部の大本。

◆第33章 エデンの焼尽

*このとき真澄の珠よりは大風吹きおこり、潮満の珠よりは竜水迸りて、瞬くうちに殿の火焰を打ち消した。また潮干の珠よりは猛火を吹出し、真澄の珠の風に煽れてエデンの城は瞬くうちに焼け落ちてしまった。竹熊一派は周章狼狽死力をつくしてヨルダン河を打ちわたり遠く北方に逃れた。この時あまたの従神は河中に陥り、その大部分は溺死してしまつたのである。

【考察】：2ページの「聖地エルサレム」の図は、現在の綾部近郊の地図を元にイメージ図として作成しました。従つてエデンの園は位田という聖師のお言葉を尊重し対岸の地としましたが、33章の記述に従うとエデンは川の内側となります。太古のヨルダン河と現在の和知川との位置が違うのは大いに想像できます。

◆第34章 シナイ山の戦闘

*エデンの野に敗れたる竹熊一派は、……難を免かれ、堂山の峽に身をひそめ、ふたたび魔軍をかり集めて、シナイ山を攻撃せむことを企て、

【考察】：エデンの野は聖地エルサレム(1-1)にある？。

◆35章 一輪の秘密

*良の金神国常立尊は、山脈十字形をなせる地球の中心蓮華台上に登られ、頭上の冠を握り、これに神気をこめて海上に投げ遣りたまうた。その冠は海中に落ちて一孤島を形成した。これを冠島といふ。

その穿せる沓を握り海中に抛げうちたまうた。沓は化して一孤島を形成した。これを沓島といふ。冠島は一名竜宮島ともいひ、沓島は一名鬼門島ともいふ。

【考察】：京都府舞鶴市の沖合（若狭湾の日本海）にある冠島（大島）と沓島（小島）

◆第37章 顕国の御玉 P199

*流れも清き天の安河の源に参上りたまうた。この山《川の誤字か》の水の上にはシオンの霊山(1-1)が雲表高く聳えてゐる。

***デカタン高原**(1-1)にむかつて錦旗幾百ともなく風に靡かせ、

【考察】：デカタン高原は印度を縦に分断する高原地帯（デカン高原）。東はベンガル湾、西はアラビア海に面する。

◆第46章 一島の一松 P248

***地中海**に羅列せる嶋嶼に・・・**一つ島**(1-1)

【考察】：瀬戸の海の一つ島に住居をして、素的な別嬪と現はれ、多数の家来を連れて住むで居つた。そこへ天教山から変性男子のお使で、天菩比命とやらが、ドツサリと強そな家来を連れて、サルヂニヤの嶋を攻め囲み、火をつけて焼滅して了つたさうだ。第12巻第25章 琴平丸

◆第47章 エデン城塞陥落

***ウラル山**(1-3)に割拠する鬼熊に歎を通じ

【考察】：ウラル山はウラル山脈の最高峰ヤロドナ山（1894m）か？

*この時秋津島根に攻めよせきたる数万の黒竜は、竜宮の守り神および沓島の守り神、国の御柱命の率ゐる神軍のために、真奈井の海においてもろくも全滅した。

【考察】：秋津島根は日本であり、竜宮(島)は冠島を指し、真奈井の海は沓島との間の海となる。第12巻第25章 琴平丸では「天の真奈井」は日本海、「安の河原」は太平洋とある。

◆第49章 バイカル湖の出現 P258

*大地は大震動とともに陥落し、長大なる湖水を現じた。これを**バイカル湖**(1-3)といふ。

【考察】：バイカル湖(Baikal)はロシア、シベリア南東部にある南北に細長い大淡水湖。世界一深い湖で、最大深度1620メートル。透明度は40メートルを超え、世界一級。断層で生じた地溝湖。

***ウラル山黒竜江**(1-3)の曲神と(余白歌)

【考察】：【黒竜江】(Heilong Jiang)中国東北地区の北境、シベリアの南東部を東流して、間宮海峡に注ぐ大河。南は内モンゴルのアルゲン河、北はモンゴルのオノン河を源流とし、松花江・ウスリー江を合せ、長さ6237キロメートル。別称アムール川。

◆第50章 死海の出現

***鬼城山**(1-4)に割拠せる竹熊の血は溢れて湖水となった。これを**死海**(1-1)といふ

【考察】：第6巻 第7章 旭光照波では「ここに四人の宣伝使がゆくりなくも、鬼城山の虎穴に入りて目出度く対面を遂げたるは、全く大神の経綸の糸に操られたるなるべし。四人の神司は仁慈の鞭を揮ひ、美山彦一派の邪悪を言向け和し、意気揚々として谷間を下り、音に名高きナイヤガラの大瀑布に襖を修し」とある。[ナイヤガラ Niagara]はアメリカ合衆国とカナダとの国境を流れるナイヤガラ川にある大瀑布。エリー湖の流出口から約35キロメートルの地に位置し、ゴート島で二分されてカナダ瀑布・アメリカ瀑布となる。

鬼城山は[アパラチア山脈](Appalachian mountains)アメリカ合衆国の東部にある古い褶曲山脈。最高峰ミツチェル山(2037m)と思われる。

【考察】：死海は第37章参照



霊界物語に出てくる地名と世界・地図 [第 2 卷]

◆序

*本書に述ぶところは概してシオン山(2-1)攻撃の神戦であって

【孝察】：シオン山=【第1巻第37章 参照】

*須弥仙山しゆみせんざんに腰を掛け

神のしらせか、白瀬川、下は音無瀬おとなせゆら由良の川、和知川、上林川わちかわ かんばやしがわの清流静かに流れ、その中央の小雲川こくもがわ、並木の老松川の辺に影を浸して立ならぶ宝玉の一つ、流れも清く、風清く、本宮山ほんぐうざんの麓なる、並松に、

【孝察】：綾部近郊の川か？

◆凡例

*『聖地エルサレム』(2-1) 【第1巻参照】

◆総説

*常世の国。【孝察】：47章参照。北米アメリカ大陸(北海道に比定)

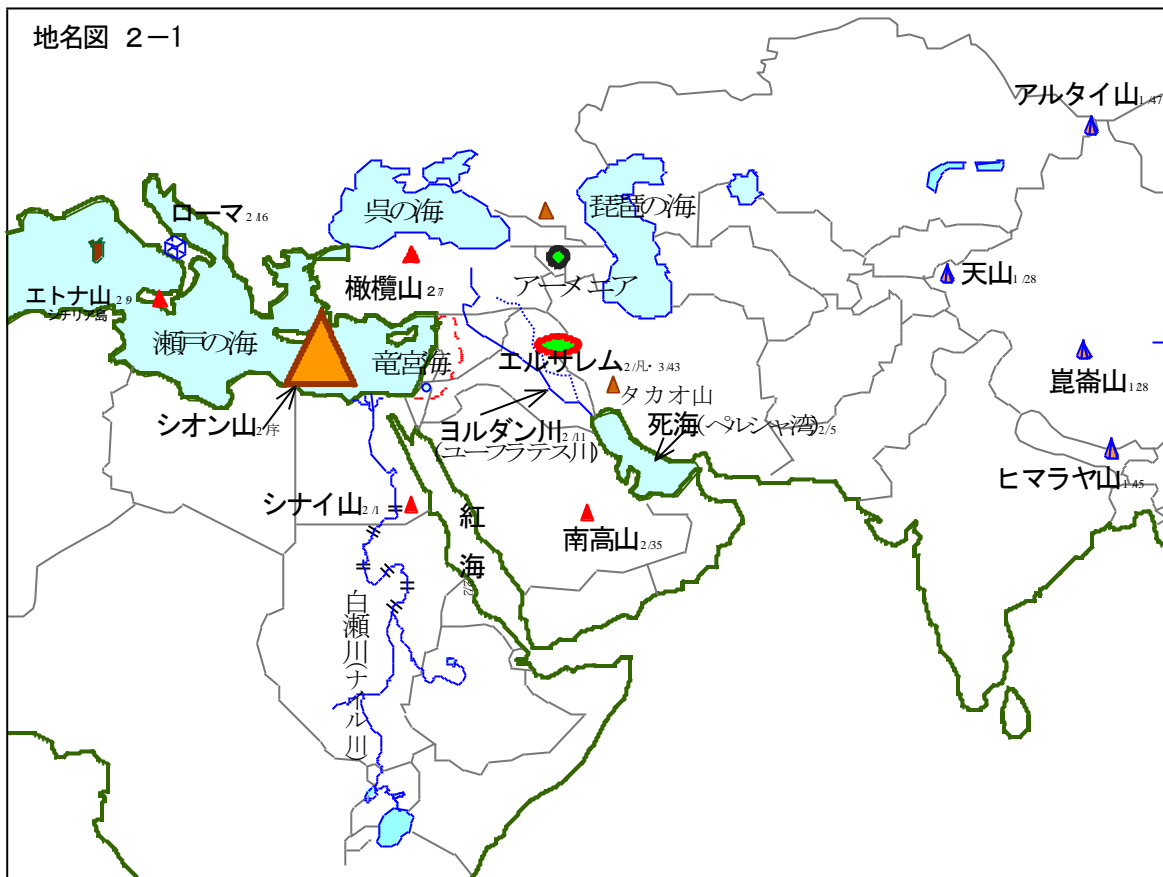
◆第1章 攻防両軍の配置

*しかし敵軍は竜宮城および地の高天原おびやを脅かすには、まづシオン山に根拠を構へる

【孝察】：聖地エルサレムの同じ

*かの神玉の精霊を秘めおかれたるシナイ山(2-1)を魔軍に占領されなば

【孝察】：シナイ山 【第1巻参照】



◆第2章 邪神の再来

*玉能姫は…一通の遺書を残し紅海(2-1)に身を投げて帰幽した。

【孝察】：【紅海】(Red Sea) (一種の藻類のために海水の色が紅を呈することがあるからいう) アラビア半島とアフリカとの間にある海。地中海との間の地峡にはスエズ運河が通ずる。

◆第3章 美山彦命の出現

*真正の美山彦命は、大八洲彦命、真澄姫の内命によりロッキー山(2-2)に立てこもり

【孝察】：ロッキー山は北アメリカ大陸西部の大山脈。メキシコの中中部からアメリカ合衆国・カナダを縦断してアラスカに及ぶ。長さ約4千5百キロメートル。最高峰はコロラド州のエルバート山

(4398メートル)で、ほかにも4千メートル級の高峰が多い。

* (ロッキー山) の東方に位する安泰山(2-2)に第二の陣営をつくり

【孝察】：安泰山はロッキー山の東方に位する

* 棒振彦はつひにロッキー山を捨てて、鬼城山(2-2)の高虎姫の陣営に退却

【孝察】：鬼城山は 【第1巻第50章 参照】

◆第4章 真澄の神鏡

*芙蓉山(2-3)に翔けのぼり

【孝察】：芙蓉山は天教山に同じ【第1巻参照】

* 竜宮城も地の高天原も既に重圍に陥り・・・万寿山(2-5)に避難し

【孝察】：一般的には「万寿山は北京近郊の燕山の余脈に属するもので高さよ約60m。言い伝えでは山の上にはある老人が彫った石の甕がある。万寿山の別称 甕山の由来となった。明の弘治七年(434年) 孝宗市の乳母へ助聖夫人羅氏により 山の手前に園静が建てられ 清の初めは、宮廷養馬場の馬草場となった。乾隆十二年(1750年) 皇太后の還曆を迎えるため 園静寺の跡地で大報恩延寿寺が建てられた。翌年 山は万寿山に名が改められ、そして、頤和園の主体となった。(インターネットより)」であるが？。

第3巻第16章では靈鷲山と万寿山は玉ノ井湖を挟んで東西にあると記されている。では靈鷲山は何処にあるのか第3巻第16章を参照

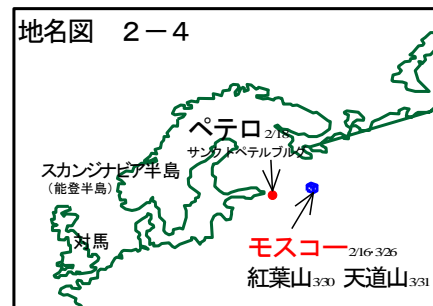
*万寿山には、バイカル湖(2-5)の邪神となりし鬼姫の再来なる杵築姫は



地名図 2-2



地名図 2-3



地名図 2-4

【孝察】：バイカル湖は【第1巻参照】

◆第5章 ^{ベスト}黒死病の由来

*死海(2-1)の悪霊となりし竹熊、木常姫 【孝察】：【第1巻第50章 参照】

*長白山(2-5)の山腹に古くより鎮まります智仁勇兼備の神将に、神国別命

【孝察】：長白山は北朝鮮と中国の国境に有る山＝白頭山。白頭山は(火山で、白色の粗面岩の軽石でおおわれているからいう)長白山の朝鮮での呼称。朝鮮民族発祥の聖山とされる。

◆第6章 モーゼとエリア

*海原彦命の部下の猛将岩高彦はオコック海(2-3)方面にありと知り

【孝察】：オコック海はオホーツク海

◆第7章 天地の合せ鏡

*滝津彦をして橄欖山(2-1)を守らしめ 【孝察】：橄欖山は【第1巻第28章 参照】

*高砂の島(2-5)に行きたまい新高山(2-5)に下らせたまふ。

【孝察】：高砂の島及び新高山。新高山は台湾第一の高山である玉山の日本統治時代の呼称。従って高砂の島は台湾

*馬上はるかに海上を渡りて地の高天原に帰還したまへるとき

【孝察】：地の高天原はここでは綾部大本

*魔神はたちまち黒竜と変じ、邪鬼と化して、ウラル山(2-5)目がけて遁走した。そうしてこの玉を竜宮島の海《湖》に深く秘めおかれた

【孝察】：ウラル山 【第1巻第47章 参照】

【孝察】：竜宮島はここでは舞鶴沖の冠島。

◆第9章 タコマ山の祭典

*言霊別命は神命を奉じて、宮比彦、谷山彦、谷川彦以下あまたの神軍を率ゐてタコマ山(2-2)に登り

【孝察】：タコマ山 タコマはアメリカ合衆国北西部、ワシントン州にある港湾都市、近郊にシアトルがある。タコマ山はタコマ市近郊のカスケード山脈の最高峰レーニア山(4392m)か。

*これぞエトナ(2-1)の大火山が爆発したはじまりである。

【孝察】：エトナはイタリア、シチリア島の東岸にそびえる活火山。標高3323メートル。【シチリア島・江戸】

*言霊別命は…己むをえず意を決してただ一柱竜宮島さして逃げ帰らうとせられた。…これが今地理学上の濠洲大陸に当るので、一名また冠島といふのである。

【孝察】：竜宮島は本文より濠洲大陸(オーストラリア)

◆第11章 ^{たぬき つちふね}狸の土舟

*一度ヨルダン河(2-1)に黄金の船を浮べ…広きこと揚子江《長江》(2-5)のやうである。

【孝察】：ヨルダン河 【第1巻第37章 参照】

【孝察】：揚子江は中国(Yanzi Jiang)長江の通称。本来は揚州付近の局部的名称。

◆第15章 山 ^{さち}幸

*元照彦は山幸を好み、^{あめ}天の香具山の鉄をもってここに…伊吹山に立てこもり時節を ^{うかが}窺ひみたる

【孝察】：伊吹山は滋賀・岐阜両県の境にある山。標高1377メートル。山中薬草に富む。石灰岩の採取地。

*武熊別の部下常のごとく相伴なって日の出ヶ岳に登り

【孝察】：日の出ヶ岳は奈良県と三重県の境に連なる台高山脈の主峰大台ヶ原山の別称。標高1695メートル。吉野熊野国立公園に属する。日本有数の多雨地帯。

◆第16章 ^{ふくろう よいだく} 梟の宵企み

*ローマ(2-1)の都に下りて・・・言霊別命はモスコー(2-4)の都に出で、

【考察】：ローマ及びモスコーは現在のローマ及びモスコーの同じ

◆第17章 ^{さかひめ ぎし} 佐賀姫の義死

*照彦、溝川彦をしてモスコーの神軍を督せしめおき言霊別命は、ボムベール山に陣せる佐賀彦のもとに到り

【考察】：ボムベール山は不明

◆第18章 反問苦肉の策

*つひにペテロ(2-4) (ロシアのサンクトペテルブルグ)に陣営を構へ・・・

【考察】：ペテロはロシア北西部にあるモスクワに次ぐ大都市サンクト - ペテルブルグ【Sankt Peterburg】。バル

ト海の支湾、フィンランド湾頭に位置し、ネヴァ川にまたがる。1703年ピョートル大帝の築いた都でペテルブルグと称し、1914年ペトログラードと改称。18年までロシア帝国の首都。ロシア革命の中心地となった。24年レニングラードと称し、91年現名に改称。機械・造船を中心に工業地帯を形成。エルミタージュ美術館・冬宮などがある。



*ここに常世姫はタカオ山に城塞を構へ

【考察】：タカオ山(2-1)は第13巻第14章に駒彦『此処はタカオ山脈の手前だ。此の下辺りを醜の巖窟が貫通して居るのぢやが、・・・終にはフサの都に着くであらう。』とあるからイランにあるザクロス山脈のサルド山(4548m)か

*大台ヶ原山の根みを報ずるはこの時なり

【考察】：大台ヶ原山は第11章参照

◆第27章 湖上の木乃伊

*スペリオール湖(2-2)のほとりに^{ふながみ}船頭となって

【考察】：(Lake Superior) 北アメリカ五大湖の一。その西端に位置し、東に流れ出た水はヒューロン湖に注ぐ。淡水湖としては世界最大。標高183メートル、面積8万2千3百平方メートル。最大深度406メートル。

◆第28章 高白山の戦闘

*高白山(2-2)は常世の国の極北にして、

【考察】：高白山はアラスカの最高峰マッキレー山(6194m)か。

◆第30章 十曜の神旗

*高白山を中心とするアラスカ国(2-2) 【考察】：北米アラスカ州

◆第32章 言霊別命の帰城

*海峡をこえ、長高山(2-5)の北方に都を開き

【考察】：長高山は本文に「海峡をこえ」と有るのでベーリング海を越えたシベリア（ロシア連邦）の山か。位置は特定できず。

◆第35章 南高山の神宝

*若豊彦は常世の国にありて……大自在天の忌諱《いみきらうこと》にふれ、たちまち猛烈なる攻撃にあひ、カシハ城をすて味方は四方に散乱し

【考察】：カシハ城は本文より常世の国にあることがわかるが位置までは特定できない。

*言霊別命は高照姫命を先頭に……長駆して南高山(2-1)に微行することとなった。

【考察】：南高山はアラビア半島か

◆第39章 太白星の玉

*竜宮城の従臣鶴若は、黄金水より出でたる十二の玉の中、一個の赤玉を命にかへてアルタイ山(2-1)に逃れ守っていた

【考察】：アルタイ山はアルタイ【Altai】中央アジア、ロシアの西シベリア平原、中国のジュンガル盆地、モンゴル高原との間に連なる全長約2千メートルの山脈。4つの主脈に分れ、高原性。オビ川の水源。西部のロシア側では金・銀などの鉱物資源に富む

◆第43章 濡衣きぬ

*壇山(2-5)に隠れ

【考察】：壇山は韓国の慶尚南道に有る山。素戔鳴尊にゆかりのある山

◆第47章 天使の降臨

*ロッキー山、ウラル山、バイカル湖および死海にむかつて伝令をくださった。西藏、天竺の国境青雲山(2-5)よりはコンロン王を滅ぼさむとして仏頂山ぶつちやうざんの魔王、鬼竜王きりゆうおうに歎を通じ

【考察】：西藏（チベット）は中国四川省の西、インドの北、パミール高原の東に位置する高原地帯。18世紀以来、中国の宗主権下にあったが、20世紀に入りイギリスの実力による支配を受け、その保護下のダライ=ラマ自治国の観を呈していたが、第二次大戦後中華人民共和国が掌握、1965年チベット自治区となる。住民はほとんどチベット族で、チベット語を用い、チベット仏教を信仰する。平均標高約4千メートルで、東部・南部の谷間では麦などの栽培、羊・ヤクなどの牧畜が行われる。

【考察】：天竺は日本および中国で、インドの古称

【考察】：青雲山は本文にあるよう西藏と天竺の国境にある山。カンチェンジュンガ（8586m）か？。第7巻第9章弱腰男には「青雲山のある月氏国（物語ではインド）の浜辺に到着し」とある

【考察】：仏頂山な不明。

*このとき常世国ロッキー山より常世姫の魔軍は黒雲となり

【考察】：上記文章よりロッキー山は常世の国にあることが判る。従って常世の国は北米大陸を指す。

霊界物語に出てくる地名と世界・地図 [第 3 卷]

◆第1章 神々の任命

*ここに国治立命は、シオン山(3-5)に鎮祭^{ちんさい}せる十二個の玉を大地の各所に配置し、これを国魂^{くにたま}の神となし、八頭^{やつがしら}神を任命^{かみ}さることとなりたり。

【考察】：シオン山=【第1巻第37章 参照】

◆第2章 八王神の守護

玉の色	八王	八頭	玉の色	八王	八頭
青色=新高山	[花森彦・高国別、高国姫]		赤色=万寿山	[磐樟彦・瑞穂別、瑞穂姫]	
白色=ローマ	[元照彦・朝照彦、朝照姫]		黒色=モスコ	[道貫彦・夕日別、夕照姫]	
紺色=ロッキー山	[貴治彦・靖国別、靖国姫]		灰色=鬼城山	[真鉄彦・元照彦、元照姫]	
白色=長白山	[有国彦・磐長彦、玉代姫]		紅色=コンロン山	[磐玉彦・大島彦、大島姫]	
黄色=天山	[斎代彦・谷山彦、谷山姫]		金色=青雲山	[神澄彦・吾妻彦、吾妻姫]	
銀色=ヒマラヤ山	[高山彦・ヒマラヤ彦、ヒマラヤ姫]		銅色=タコマ山	[吾妻別・国玉別、国玉姫]	

◆第3章 溪間の悲劇

*新高山(3-1)は花森彦統裁のもとに、高国別、高国姫が天地の律法を厳守し、高砂島(3-1)一帯の諸神を至治太平に治めたり 【第2巻第7章 参照】

◆第5章 不審の使神

*ロッキー山(3-2)は紺色の玉を、荘厳なる神殿を建立して鎮祭され 【第2巻第3章 参照】

*地の高天原なる国直姫命の密使にして

◆第7章 諷詩の徳

*『吾こそは高白山(3-2)の麓に住む言代別といふ者なり。 【第2巻第28章 参照】

◆第8章 従神司の殊勲

*常世城(3-2)目がけて黒雲に乗じ雲を霞と逃げ去り

【考察】：常世城は特定できないが常世の国のロッキー

山【第2巻第3章 参照】と思われる。

◆第9章 弁者と弁者

*鬼城山(3-2)におこれる種々の経緯を見るとはなしに、見聞しむたりける。

【第1巻第50章 参照】

*竜宮城の侍女にして弁舌に巧みなる口子姫

◆第13章 嫉妬の報

*長白山(3-1) (3-3)には白色の



玉を、荘厳なる神殿を造営してこれに鎮祭し

【考察】：【第2巻第5章 参照】

*これよりこの川を鴨緑江(3-3)となんいふとかや

【考察】：鴨緑江は朝鮮と中国東北部との国境をなす川。白頭山(長白山)に発源し、南西流して黄海に注ぐ。

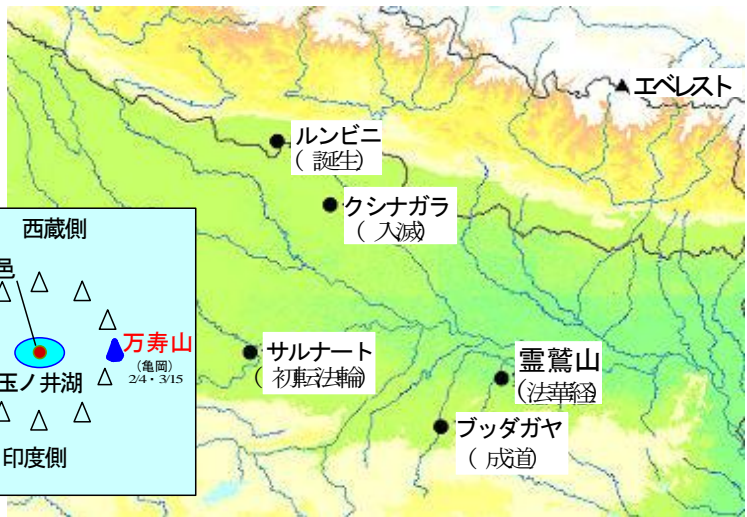
全長795キロメートル。朝鮮第1の長流

◆第15章 神世の移写

*万寿山(3-3)には八王神として磐樟彦、磐樟姫の夫妻居住し赤色の玉を荘厳なる神殿に鎮祭し、万寿山は、実は霊鷲山(3-3)の神霊三ツ葉彦命の内面的輔佐の神徳の功

◆第16章 玉ノ井の宮

*玉の井の邑は、玉の井の湖の中央に浮かべる清き一つ島なり。湖の外は、大小高低、千変万化の霊山をもって囲らされ、万寿山は東方に位し、霊鷲山は西方に位し、



【考察】：霊鷲山(出典：ウィキペディア『現在のラージールの東方にある Saila-giri の南面の山腹にあり、現在はチャタ(Chata)山と呼ばれる。釈迦仏が在世した当時では、マガダ国の首都だった王舎城(ラージャグリハ)の東北、ナイランジャンナー(尼連禅河=にれんぜんが)の側にある小高い山である。

この山は長らくの間、場所も忘れられていたが、1903年(明治36年)1月14日朝、大谷光瑞が率いる第1次大谷探検隊が朝日に照らされたこの山を仏典上の霊鷲山と同一と確定した。数年後のインド考古局第3代目の長官ジョン・マーシャルの調査によって国際的に承認された。

かつてビンビサーラ王も、車を降りてその参道を登ったといい、王の要請により布薩制（ふさつ、懺悔の儀式）を設けられた。釈迦仏はこの山において多く説法したという記録があるため、法華経もこの地で説かれたという設定になったと考えられている。そのため、霊山浄土、霊山会などという語が派生した。

*これを牛の湖水(3-5)といふ。今日の地理学上の裏海(3-5)にして、また西に分れ降りて湖水を形成したるを、唐の湖といふ。現今地理学上のなり。

【考察】：裏海（牛の湖水）は現在のカスピ海。黒海（唐の湖）は現在の黒海である。

◆第17章 岩窟の修行

*王仁の身は高熊山の岩窟の奥に、端座しむたりける。

◆第19章 楠の根元

*青雲山(3-3)は、八王神として神澄彦任ぜられ 【第2巻第47章 参照】

夜中ひそかに宝珠山(3-3)にわけ入り、広き谷川の瀬に兔を箆に容れ浅瀬に浸し置き

【考察】：宝珠山は青雲山近くの山か？

◆第21章 狐の尻尾

*「ヒマラヤ山(3-3)には純銀の玉をその国魂とし、白銀の宮に恭しく鎮祭し、【第1巻第45章 参照】

◆第22章 神前の審判

*天山(3-3)には黄色の玉を祀り、宮殿を造営してこれを鎮祭し 【第1巻第28章 参照】

◆23章 鶴の一声

*崑崙山(3-3)には紅色の国魂を、紅能宮を造営して鄭重に鎮祭され 【第1巻第28章 参照】

◆24章 蛸間山の黒雲

*蛸間山(3-2)には銅色の国玉を鎮祭し、吾妻別を八王神に任じ神務を主管せしめ 【第2巻第9章 参照】

◆第29章 男波女波

*モスコ(3-4)の八王神道貫彦は、ローマ(3-5)に召集されて多年の間不在なりき 【第2巻第16章 参照】

◆第30章 抱擁帛一

*大道別は鷹住別、若彦とともに紅葉山(3-4)の麓まで帰るをしりも

【考察】：紅葉山はモスコ近郊の山か

◆第31章 竜神の瀑布

*あるとき皇照彦、竹友別はゆくりなくも天道山(3-4)に分け入りしが

【考察】：天道山はモスコ近の山か

◆第33章 巴形の斑紋

*南高山(3-5)の深き谷間に迷ひ入りける 【第2巻第35章 参照】

◆第34章 旭日昇天

*荒河の宮(3-5)の犠牲たるべき運命のもとにおかれたるものなり

【考察】：南高山の近郊にある山の宮か？

◆*36章 唾者の叫び

*道彦、八島姫は、個々別々に身を褻し《やつし》て長高山(3-3)の城下に進みいりぬ。

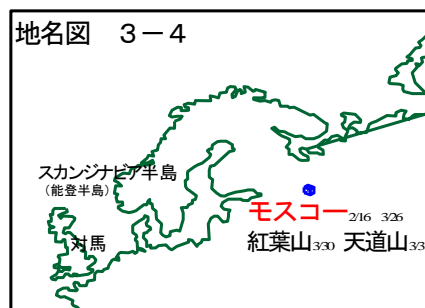
【第2巻第32章 参照】

◆第39章 乗合舟

*道彦は高白山を出でしより、諸方を遍歴し……、やうやく常世国スペリオル湖(3-2)の北岸に出たり。

【第2巻第27章 参照】

◆第42章 常世会議



*ここに玉の井の湖に一敗地にまみれ潰走したる【第2巻第15章 参照】

◆*43章 配所の月

*かつ進んで竜宮城およびエルサレム(3-5)の上に進撃したり、【第1巻第37章 参照】

◆第44章 可賀天下

*橄欖山(3-5)より敵にむかって攻入り蒼空高く一大激戦を開始し【第1巻第28章 参照】

◆第四五章 猿猴と渋柿

*改心のためとしてエデンの園に籠居を厳命したまひける。

【考察】：エデンの園はエルサレム(3-5)にある園か

